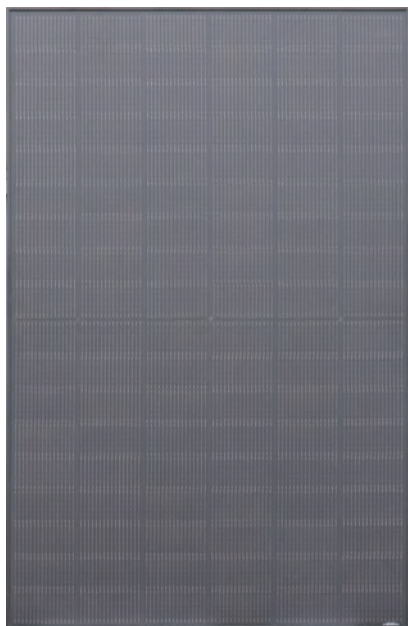


「眩しさを抑えた」 防眩型太陽電池モジュール



2025年冬季発売予定

光害リスクなどが理由で太陽光発電システムの設置をあきらめていた都市部などの住宅屋根やコンビニの屋根、景観条例(将来的に国立公園内建物等含む)がある地域への設置が可能になります。

■ 3機種発売予定

公称最大出力

485W

1903×1134×30mm

シルバーフレーム

公称最大出力

430W

1722×1134×30mm

ブラックフレーム

公称最大出力

225W

1390×768×30mm

ブラックフレーム

眩しさを抑えるガラス表面の凸凹

ガラス表面にケミカルAG*加工を行い微細な凹凸を形成するもので、太陽光などに対して防眩性を持たせることができます。

※AG: Anti-Glare=眩しさを抑える

一般的な太陽電池モジュール

AG無し



一般的な太陽電池モジュールは低反射ガラスを使用していますが、それだけでは、反射光を十分に低減することはできません。

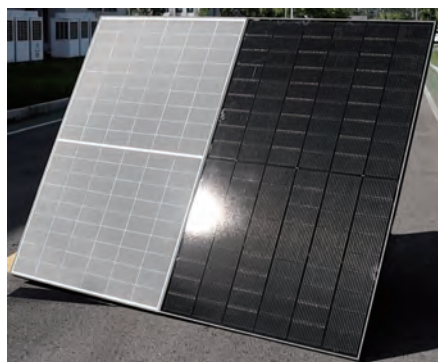
防眩型太陽電池モジュール

AG有り



防眩型太陽電池モジュールは、ガラス表面を凸凹に加工することで、反射光を分散させて眩しさを抑えます。

防眩性能による効果



一般的な太陽電池モジュールと 防眩型太陽電池モジュールの防眩性能

防眩型太陽電池モジュールは、一般的な太陽電池モジュールと比較して、反射低減効果が高くなり、眩しさが抑えられます。また、反射光の当たり具合により太陽電池モジュールが灰色がかった色味に見えます。